

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020年 4月 25日 提出

1. 研究課題名	
服装・身装文化デジタルアーカイブの利用拡大に関する検討と実践: バーチャル・インスティテュートの活用を前提として (英文課題名: Examination and practice on the use expansion of clothing culture digital archive using the Virtual Institute)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
高橋晴子	国立民族学博物館・外来研究員
3. 研究分担者 (合計: 3 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
八村広三郎	立命館大学 ・ 名誉教授
鈴木桂子	衣笠総合研究機構・教授
津田光弘	イパレット代表

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>本研究は、国立民族学博物館のウェブサイトより公開している「服装・身装文化デジタルアーカイブ」(MCD プロジェクト(代表 高橋晴子)作成)の国内外での利用拡大に関する課題を解決し、実践するものである。「服装・身装文化デジタルアーカイブ」は、以下の4本のデータベースによって構成されている。</p> <p>1)身装文献、2)衣服・アクセサリー標本、3)身装画像データベース「近代日本の身装文化」、4)近代日本の身装電子年表</p> <p>これら4本のデータベースは、文字・標本・画像・文書画像と異なったメディアで構成されているが、目的に応じて、複数のデータベースより情報を取得する必要があるため、まずは4本のデータベースの一覧が可能な環境を整えることを実践したい。つぎに、各データベースに利用者がスムーズにアクセスできる条件を検討し、整備する。さらには、関連サイトなども含め、「身装-身体と装い」についての学習に必要なアイテムを整え、バーチャル・インスティテュートの名称にふさわしいサイトを作成することを目的とする。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>今年度における研究設備活用の成果は次の通りである。ヴァーチャル・インスティテュートを活用して、「服装・身装文化デジタルアーカイブ」のサイトを作成し、国立民族学博物館(以下、民博)のウェブサイトより発信している次の4本のデータベース―①身装文献、②衣服・アクセサリー標本、③身装画像データベース「近代日本の身装文化」、④近代日本の身装電子年表へのリンクを実現した。これにより、民博のウェブサイトのほかに、4本のデータベースを一覧できる環境が整った。つぎに、現在進めつつある喫緊の課題は、4本のデータベースのうち、とくに国際的に需要の高い身装画像データベース「近代日本の身装文化」の英語化をすすめ、国際化を実現する</p>

ことである。すでに、検索語の一部の英語化、ならびに検索のためのツールである<身装文化 GUI>の作成が実現している。今後は、この成果をもとに、より使いやすい GUI の実現を目指し、国際版身装画像データベースの発信元としてのヴァーチャル・インスティテュートの活用を計画している。さらには、本デジタルアーカイブの特徴である「近代」にとくに焦点をあて、未公開の貴重な各種資料をデータベース化し、ヴァーチャル・インスティテュートから発信することを予定している。このように、民博では諸般の事情により、すぐには手のつけられない課題の解決の可能性を、ヴァーチャル・インスティテュートを通して探り、「服装・身装文化デジタルアーカイブ」を、身装文化のポータルサイトとして機能させたい。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

- ・ Keiko Suzuki, and Bergmann, Annegret, eds. *Art Research, Special Issue: Collected Papers from the Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshops in 2017 and 2019*, 138p., 2020
- ・ 大丸弘、高橋晴子 『新聞連載小説の挿絵でみる近代日本の身装文化』, 528p., 2019年12月, 三元社(東京)
- ・ 八村広三郎 「無形文化財のデジタルアーカイブ」, 『文化情報学事典』(村上征勝 監修), p. 423-428, 2019年12月, 勉誠出版(東京)

(2) 論文

- ・ 鈴木桂子 「機械捺染とデザインに見る越境性」, 『きものとデザイン—つくり手・売り手の一五〇年』(島田昌和編), 2020年3月, ミネルヴァ書房(京都)
- ・ 古川耕平、小島一成、八村広三郎 「天野舞楽曼茶羅供におけるデジタルアーカイブとその応用」, 情報処理学会, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, Vol.2019, No.1, pp. 37-42, 2019年12月 (Kohei Furukawa, Kazuya Kojima, Kozaburo Hachimura, “Digital archiving of Bugakumandalaku and its application” IPSJ Symposium Series, Vol.2019, No.1 2019/12) (査読有)
- ・ Kohei Furukawa, Kazuya Kojima, and Kozaburo Hachimura, “Digital Renovation and Archives of Japanese Ancient Ritual Performance at the World Cultural Heritage; Niutsumehime Shrine”, Proc. 18th International Conference on Geometry and Graphics, Advances in Intelligent Systems and Computing 809, pp.1958-1971, 2019, https://doi.org/10.1007/978-3-319-95588-9_174 (査読有)

(3) 研究発表等

- ・ Keiko Suzuki, “Further Frontiers in Digital Humanities,” New Frontiers in Digital Humanities for Japanese Culture and Arts: Activities of Art Research Center, Ritsumeikan University as International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture (ARC-iJAC), Heynes Room, Faculty Club, UC Berkeley, 2020年2月25日
- ・ 鈴木桂子 「文化資源・染織関係資料の学術的・経済的活用プロジェクト」, 2020年2月22日, 立命館大学 ARC (文部科学省国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」・研究拠点形成支援プログラム研究プロジェクト/2019年度成果発表会)
- ・ 高橋晴子、津田光弘、八村広三郎、鈴木桂子 「ヴァーチャル・インスティテュートの可能性—身装文化デジタルアーカイブの更なる活用に向けて」, 第66回 [特別編] ARCセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2020年1月15日
- ・ 鈴木桂子 「立命館大学・アート・リサーチセンターの文理融合研究」, 日本学術会議 総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 (第24期・第5回) ・ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会 (第24期・第2回) 合同会議, 大阪・立命館大学大阪いばらきキャンパス, 2019年12月15日
- ・ Keiko Suzuki, “Aloha Shirts and Sukajan: Their Circulation and Domestication throughout Asia,” 国際シンポジウム “The Many Shapes of Meaning: Object and Performance in Asia,” 九州大学, 2019年12月7日 (招待講演)
- ・ 鈴木桂子 「機械捺染とデザインに見る越境性」 (パネル「消費とデザイン—着物からのアプローチ」), 経営史学会 第55回全国大会 2019年10月27日 (査読有)
- ・ 鈴木桂子 「ICOM2019 京都における CIDOC 研究発表報告および今後の課題 2」, 身装文化デジタルアーカイブ研究会, 国立民族学博物館, 2019年10月4日
- ・ 津田光弘 「身装文化の横断表示の検討」, 身装文化デジタルアーカイブ研究会, 国立民族学博物館, 2019年10月4日

- Haruko Takahashi, Kozaburo Hachimura, and Keiko Suzuki, “An Image Digital Archive on the Clothing Culture in Japan from 1868 to 1945,” 第25回 ICOM (国際博物館会議) 京都大会 2019, 2019年9月3日 (国際シンポジウム) (査読有)

(4) 主催したシンポジウム・研究会等 (なし)

(5) その他研究活動 (報道発表や講演会等)

- 高橋晴子 「服装・身装文化デジタルアーカイブ: 36年のあゆみと今後の課題」, デジタル人文学への誘い 第2回, 大阪府立国際会議場, 2020年1月25日

- 津田光弘 身装文化統合 GUI (仮) (Shinsou-Bunka Unity GUI (temporary)) の作成
Temporary URL) <https://shinsou.kakunin-web.net/senri/default/index> (現在は非公開)

(6) 受賞学術賞 (なし)

(7) 科学研究費助成事業

- 服装・身装文化デジタルアーカイブ, 科学研究費研究成果公開促進費(データベース) 2019年4月—2020年3月, 研究代表者—高橋晴子, 作成協力者—八村広三郎, 鈴木桂子, 津田光弘 (2019年4月~9月) および MCD プロジェクト

(8) 競争的資金等 (科研費を除く) (なし)

(9) その他 (なし)